

研究発表もうしこみフォーム

氏名：小林 秀高

氏名のローマ字表記：Kobayashi Hidetaka

所属：拓殖大学北海道短期大学

専門分野：政治学

発表のタイトル：モンゴルにおける汚職と政治制度

発表要旨（600字～800字程度）：

本報告の目的は、体制的には民主制と評価されながらも、それと矛盾する高い政治腐敗がモンゴル故国において存在する要因を検討することである。1992年の民主化以降、モンゴル国における政治体制は様々な問題は抱えながらも定期的に大統領選挙と議会選挙を繰り返し、両選挙ともに政権交代が起こるなど、民主主義は定着してきていると考えられている。世界の政治体制の自由度を測定している **Freedom House** の指標においても2013年には1.5（7～1の値をとり1が最も自由な政治体制）に改善され、日本とほぼ同様の値となっている。

しかし一方で、モンゴル国における汚職は、社会に蔓延していると認識されている。大きな出来事としては、2012年にエンフバヤル元大統領が汚職で逮捕され、2017年の大統領選挙では3候補全てに汚職疑惑が持ち上がった。2018年の各国の腐敗を指標化している **Transparency International** によると、モンゴル国の腐敗認識指数（CPI）は100点中37点であり、180カ国中93位に位置する。民主制国家のCPIの平均値は75、権威主義体制国家の平均値が30であることを考えると、モンゴル国における37点は民主制国家としては極端に低いといえる。

開発政治において、政治的腐敗は民主主義を弱め、人々の政治体制への信頼を失わせるものと理解されている。そのため、一般に政治体制の安定しない開発途上国や権威主義体制の国家では高い値をとり、民主化が進展するほど低下していく。本報告では、クライエントリズムとレントシーキングという概念からモンゴル国の政治腐敗を分析する切り口とする。今回の報告では、第一に腐敗が民主制におよぼす影響をまとめる。第二にモンゴルにおける腐敗の全体像の数値的な把握を行い、その上で事例としてモンゴル国における国家官僚レベルにおける腐敗の政治学的な特徴をまとめる。